

## 30pZM-5 我が国の大学における核融合研究に関する資料調査 II

核融合研(名誉), 核融合研<sup>A</sup>, 九大応力研<sup>B</sup>, 東北大(名誉)<sup>C</sup>, 名大(名誉)<sup>D</sup>, 大同工大情報<sup>E</sup>  
大林治夫, 木村一枝<sup>A</sup>, 佐藤浩之助<sup>B</sup>, 佐藤徳芳<sup>C</sup>, 寺嶋由之介<sup>D</sup>, 難波忠清<sup>A</sup>, 藤田順治<sup>E</sup>

### Archival studies on the nuclear fusion research at universities in Japan II

NIFS(Prof. Em.), NIFS<sup>A</sup>, RIAM Kyushu Univ.<sup>B</sup>, Tohoku Univ. (Prof. Em.)<sup>C</sup>,  
Nagoya Univ. (Prof. Em.)<sup>D</sup>, Daido Inst. Technol.<sup>E</sup>  
Haruo Obayashi, Kazue Kimura<sup>A</sup>, Kohnosuke Sato<sup>B</sup>, Noriyoshi Sato<sup>C</sup>,  
Yoshinosuke Terashima<sup>D</sup>, Chusei Namba<sup>A</sup>, Junji Fujita<sup>E</sup>

#### 1. 資料調査研究の目的

半世紀に亘る我が国の核融合研究開発は、学問的内容の発展とその推進方策とが互いに絡み合いつつ、社会的な期待をも踏まえながら新しい研究領域を切り拓くという、それ自身が一つの実験の歴史になっている。それを跡づける基本的資料を収集・整理し、利用可能な形で保存することは、今後の進展を支えるためにも不可欠である。この観点から、特に核融合科学研究所(NIFS)をはじめとする大学関係の関連資料を中心に、資料調査、データベースの作成を目指す共同研究(西尾成子代表)の一環として本研究は出発した。

#### 2. データベースの作成

現在 NIFS に残されている資料については、順次データベース化の作業を進めている。1999～2002 に、延べ約 1 万項目(「経由の異なる同一資料」の重複を含む)がリストアップされた。資料1項目毎に ID 番号を付して封筒に入れ、それを約 300 個の段ボール箱に格納し、実験棟内に保管している。将来的には図書館に収納し、公開・開示を目指す方向で動いている。

#### 3. 資料の収集・拡充・整備 / インタビューの実施

既存の資料はその由来に左右され、必ずしも系統的ではない。そこで、できるだけ補完的な資料を集める必要がある。このために広く大学関係の協力を得なければならない。共同研究の活動としては、インタビュー(1対多)形式での資料化を試みた。核融合研究方針と体制の重要な転回点におけるキーパーソンの1人であった関口忠・東大名誉教授に、2000年8月と2002年4月の2回にわたってお話を聞いた\*。(質問状、講師の事前資料、談話、質疑、座談、記録作成)の手順を踏んで行った。[\*第1回記録:NIFS-MEMO-33]

#### 4. 今後の課題(資料調査活動の中から浮かんできた問題点)

- 1) 資料の整備: 目的に即した分類・登録・検索・保管・開示法の追求
- 2) 資料の収集: 不備の充足、現在に即応した資料収集法 (Internet, etc.)
- 3) インタビュー: 主題と質問の内容、Oral History 手法の適用性 の検討
- 4) 資料の有効活用に向けた恒常的管理運用体制の確立